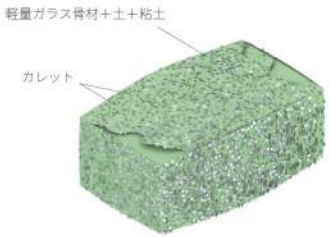
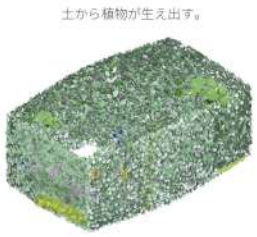
うけとる、うけこむ

21 世紀社会の住宅では、社会を公私に空間化することのみならず、コロナ禍が提示したような気配でつながるガラスが必要である。
また、従来のガラスは視覚的に抜けはあれども、どうしてもその物質が空間要素になった時に示すのはクローズドな存在であった。

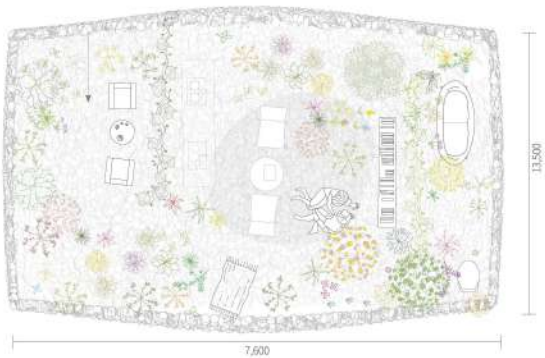
そこで現代技術を活かし、廃ガラスを用いてつなぎ合わされた空間を作り出す。多孔質で不規則な空間が抜けを生み出し、ガラスのクローズドな性質を弱めるだけでなく、現代社会の人の存在や気配をぼんやりと知覚できるような空間を、そして自然と密になった生活を提案する。



カレットと軽量骨材と土を混ぜ合わる。



内部を切削する。

多孔質な空間が気配を伝え、自然と密になる。

カレットに軽量ガラス骨材＋土＋粘土を混ぜ合わせ空間に敷き詰めた後、外部に接する面のみを残し間取りに合わせて内部を切削していく。
カレットは光を取り込み、軽量骨材土により接着され、抜けのある空間を生み出す。接着に用いられた土からは植物が生い茂り、
抜けのあるカレットが周囲の気配を取り込みにじませ、人間本来の自然に近しい生活を産みだす。